

～宮崎県内で確認されている主な特定外来生物～

【アライグマ】

□原産地 北アメリカ

- 特徴等
- ・白色の顔に黒色系のマスクを着けたような外見で4～7の輪模様を尾に持つ。
 - ・前足の足跡が人間の手のような形。
 - ・雑食性で魚類・両生類・鳥類・昆虫・野菜・果実類等さまざまなものを食べるので、在来生態系への影響や、農作物への被害が懸念される。
 - ・アライグマ回虫等、様々な病気を持っている可能性がある。



【ソウシチョウ】

□原産地 東アジア、東南アジア

- 特徴等
- ・渡りはせず定住的で、ヤブに営巣する。
 - ・羽色は焦げ茶が主体で、比較的地味。大きく、複雑な音色でよくさえずる。
 - ・全国的に分布を拡大している。県内にも広く分布し、小動物を捕食する。
 - ・ウグイス等と競合しており、在来種への影響が懸念される。



【スウィンホーキノボリトカゲ】

□原産地 台湾

- 特徴等
- ・体長は全長20～30cm程度。
 - ・現在、国内においては、静岡県での定着が確認されている。
 - ・アリ類を中心として、コウチュウ目、チョウ目、カマキリ目、クモ類などを捕食することから、さまざまな在来種への影響が懸念されます。



【ウシガエル】

□原産地 アメリカ東部・中部、カナダ南東部

- 特徴等
- ・大型で極めて捕食性が強く、水生動物、昆虫などを捕食するが、口に入る大きさであれば、ほとんどの動物が餌となる。
 - ・全国の河川、湖沼に広く分布している。
 - ・強い捕食性や在来のカエルとの競合によって、多くの在来生物の減少が懸念されている。



【ハイイロゴケグモ】

□原産地 東アジア、東南アジア

- 特徴等
- ・成熟した雌の体長は約0.7～1cm。全体が黒色で、腹部の背面に目立った赤色の縦条があり、腹側には砂時計状の赤い斑紋がある。
 - ・雄の体長は約4～5mmで腹部背面は灰白色で中央に縁取りのある白い斑紋があり、その両側に黒紋が2列に並ぶ。
 - ・平成19年10月に宮崎港、11月に細島港で確認され、同年11月に駆除が行われている。
 - ・神経毒を持ち、咬まれると、局所の疼痛、熱感などの症状が出る。



【セアカゴケグモ】

□原産地 オーストラリア

- 特徴等
- ・成熟した雌の成熟した雌の体長は、約0.7～1cm。
 - ・全体が黒色で、腹部の背面に目立った赤色の縦条がある。
 - ・毒を有するのは雌のみである。
 - ・宮崎市では平成23年に発見されている。



【ブルーギル】

□原産地 北アメリカ東部

□特徴等 ・全長25cm。体側には7～10本の暗色横帯がある。

- ・成長するにつれ、体色は濃灰褐色から暗褐色に黒ずみ、横帯はやや不明瞭になってくる。
- ・県内の野池や河川などに分布している。
- ・雑食性であり、捕食による在来種への影響や漁業被害の可能性が示唆されている。



【オオクチバス(ブラックバス)】

□原産地 北アメリカ

□特徴等 ・全長30～50cm。上あごの後端が眼の後縁の直下よりも後方に達する。
・体側から背にかけて不規則な暗斑がある。腹側は黄味を帯びた白色。
・県内の野池や河川などに分布している。
・捕食による在来種への影響や漁業被害の可能性が示唆されている。



【ツマアカスズメバチ】

□原産地 中国、台湾、東南アジア、南アジア

□特徴等 ・女王30mm、オス24mm、働きバチ20mm。
・体が全体的に黒っぽく、腹部の先端がオレンジ色。
・樹木の高い位置に在来のスズメバチよりも、大きな巣をつくる。
・在来のスズメバチの減少や捕食される昆虫類への影響が懸念されている。



【オオキンケイギク】

- 原産地 北アメリカ(ミシガン～フロリダ、ニューメキシコ)
- 特徴等
 - ・キク科の多年生草本で、高さは30～70cm程度である。
 - ・道ばた、河川敷、線路際、海岸などに生育する。
 - ・開花期は5～7月で黄色の花をつける。
 - ・強靱な性質のため、全国的に野生化しており、在来種への影響が懸念される。



【ブラジルチドメグサ】

- 原産地 南アメリカ
- 特徴等
 - ・川岸や水湿地に生える多年草で、茎の長さは1m以上にもなる。
 - ・泥に根を張って生活するとともに、水面を浮遊して分布を拡大する。
 - ・節から葉や根を出す。根茎はばらばらになり易く、茎切片による栄養繁殖が極めて旺盛である。
 - ・平成26年に高原町で確認された。

【オオフサモ】

- 原産地 南アメリカ
- 特徴等
 - ・根が完全に水面下にあり、茎や葉が水中から水面上に伸びる多年草で、水面からの高さは20～30cm。
 - ・耐寒性があり、冬にも枯れずに成長し続ける。湖沼、河川、池、水路などに生育する。
 - ・開花期は6月。
 - ・在来種への影響が懸念される。



【ボタンウキクサ(通称:ウォーターレタス)】

□原産地 アフリカ

- 特徴等
- ・サトイモ科の浮遊性の常緑多年草で、高さは10cm程度。
 - ・暖帯～熱帯に分布し、池沼、河川、水田、水路、ダムなどに生育する。
 - ・開花期は5～10月。冬期の水温が15～20℃以上ないと衰弱して枯れることが多いとされる。
 - ・在来種への影響、繁茂による水中の光や酸素不足等から魚介類への悪影響などが懸念される。

写真の御協力(敬称略)

齋藤政美 末吉豊文 星野一三雄 南谷忠志 環境省

